

米国産MDFを輸入

設楽ランバー

東京・名古屋へ2500m³入荷

集成材輸入商社の設楽ランバー（前橋市、設楽保彦社長）はこのほど、米国産MDF2,500立方メートルを輸入した。国内における需要の高まりに対応したもので、今後の状況を見ながら一定量のコンスタントな輸入を計画している。

入港したMDFは米
国産、樹種は米松。サ
イズは4×
8判、厚さ
12、15、18
ミでホルム
アルデヒド
放散量区分
はF☆☆☆
☆相当。東
京1000
0、名古屋
1500の
合計2500
0立方メートルが
入港した。

需要に対応、継続輸入



米国産MDFと設楽社長（左から2人目）、
その右が東常務（東京木材埠頭で）

今回は需要サイドの
要請を受け、トライア

ルとして行ったが、合板がタイトな状況が続いていることや、材色が白系で人気があることなどから、今後、継続的な供給を念頭に現場工場との調整を図る。F☆☆☆F☆☆☆☆まで需要に合わせた対応が可能なほか、ラジアタ松のMDF輸入も検討している。

同社は集成材、フリー板等の木材輸入を手掛け、インドネシア、マレーシア、中国などと太いパイプを構築している。メルクシパイオン集成材、ペルプックルとして行ったが、合板がタイトな状況が続いていることや、材色が白系で人気があることなどから、今後、継続的な供給を念頭に現場工場との調整を図る。F☆☆☆F☆☆☆☆まで需要に合わせた対応が可能なほか、ラジアタ松のMDF輸入も検討している。

「MDFはまだ足りない状況であり、需要とのバランスが合えば毎月一定量を輸入していきたい。こういったものが必要とされているのか、需要サイドの声を聞かせていただき、反応を見ながら今後の対応を図りたい」（東常務、MDF担当）と語っている。